

「知床半島エゾシカ保護管理計画素案」についての地元説明会における、主な地元意見・質問と当所の応答(概要メモ)

文責：釧路自然環境事務所

平成18年9月12日(火) 18:00~19:30 : 斜里町(ウトロ漁村センター)

平成18年9月13日(水) 18:00~19:30 : 羅臼町(役場会議室)

一般参加者数 : 計39名(12日:26名・13日:13名)

場所	番号	地元からの意見・質問	釧路自然環境事務所応答
斜里	1	・特定鳥獣保護管理計画は都道府県が作成するものと理解しているが、本計画の作成主体はどこか。	・本計画の策定主体は環境省。 ・本計画は、北海道が策定する特定鳥獣保護管理計画の「地域計画」として位置づける予定。
	2	・エゾシカWGでの検討には林野庁は参加しているのか。	・毎回ワーキンググループ会合に出席し議論に参加してもらっている。
	3	・「生態系が取り返しのつかない状態になる前に早急に対策を練る必要がある」とあるが、既に取り返しのつかない状態になっているのではないか。	・現在既に危機的な状況と認識。 ・計画を何とか今年度中に成案とし、本計画に基づいた具体的な事業を早急に行ないたいと考えているところ。
	4	・ある場所で捕獲を行なった場合、別の場所に逃げるなどして、その場所ではシカの影響は下がったが、別の場所では被害が拡大したということも考えられるのではないか。	・もし密度操作を行うことになった場合は、エゾシカの行動域や他の地域への影響の有無等を常にモニタリングしながら進めていきたい。
	5	・100年前をモデルとするとあるが、当時は実際にどの程度の密度、個体数であったのか、教えて欲しい。	・当時の正確なデータはわからない。 ・ここで明治期以前をモデルととしているのは、人為的な大きな開発が行なわれる以前の生態系を目指すという、定性的な意味である。
	6	・本計画を完成させるためには、まだまだデータが足りない。今後データを充実させる必要がある。	・データが全てそろわないとなにも出来ないというのでは、いつまで経っても対策を講じられない。 ・モニタリングを行ない、必要に応じ手法や強度等を見直しながら、具体的な対策を、試験的にでも進めたいと考えている。 ・なお、今までの検討の際に使用した各種調査結果等は全て公表しているので参考にしてほしい。
	7	・密度操作実験に必要な基本的データ(何頭捕獲するのか等)を示して欲しい。	・本計画の策定に合わせ、密度操作実験の具体的な手法や頭数等を検討すべく作業中であるが、まずは本計画を成案にするのが先と認識。
	8	・エゾシカが明治期に激減したのは、大雪よりも乱獲の影響が大きいと考える。各地にエゾシカ肉の缶詰工場もあった。	・全道的にはエゾシカの乱獲があったことは認識。「背景」部分の書きぶりを少し検討したい。
	9	・阿寒で前田一步園が行なっている生体捕獲を、100㎡運動地で行なうべき。 ・密度操作実験よりもはるかに多くの数を獲ることができ、有効利用も考えれば一石三鳥である。	・生体捕獲も個体数調整の手法の選択肢の一つとして考えている。 ・100㎡運動地で個体数調整を実施するには、同運動参加者の合意形成も含めて、まだ検討が必要だが、本計画案では、密度操作を行なう場所の候補地の一つに挙げている。
	10	・管理計画には、どこまで我々の意見を受け入れてくれるのか、これまでの例だと、結局当初の案が通り、我々の意見を取り上げていただいた経験がない。	・頂いた意見は、全て次回のエゾシカWGに提示し、議論の参考にさせていただきたい。
	11	・越冬環境改変とは具体的にどのようなものを想定しているのか。	・例えば道路法面をエゾシカが利用できなくなるように柵で囲うとか、エゾシカが食べない植物を植えるとかいったことを想定している。 ・極端なことを言えば、法面の緑化をやめてしまいコンクリートで固めてしまうということも考えられるが、国立公園としての風致景観上の考慮も必要。
	12	・知床半島の森は以前はもっと鬱蒼としていた。今は他の地域と見比べて森が貧相になり愕然とする。	
	13	・既に変なことになるという認識を持って、とにかく早く取り組んで結果を出して欲しい。	

14	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロード（開発局・国道）の検討委員もしていて、その時の議論を思い出す。考え方が多様なことはいいが、本当に越冬環境改変等を行えるのか疑問。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で可能性として考えられる対策を全て挙げたもの。 ・予算上の制約もあるが、本管理計画が策定されれば、それに基づいて具体的な対策を、優先度の高いものから早急に取り組んでいきたい。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・利用適正化の話を含め、自然保護に関するいろいろな話を聞いていると環境省の予算が少な過ぎると思う。積極的な予算措置を期待。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府が実施した自然保護に関する世論調査の結果が昨日公表された。その中では、自然保護を重要視する声が今までになく多くなっている。 ・こういったことも追い風にして予算獲得に努力していきたい。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園内での駆除や、フェンスの設置も検討すべき。やれることはやってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な制約はあるが、環境省としてできることは早急に行なって行きたい。 ・本計画では、国立公園内、国指定鳥獣保護区内、世界遺産地域内での個体数調整も計画している。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・ウトロ市街地街地での庭木への食害等への補償について何も書かれていないが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・残念ながらそれらに対する補償を環境省として行なうことは出来ない。 ・エゾシカの習性、行動域の解明や、近接する国指定鳥獣保護区内で個体数調整を行うなど、色々な形で側面から地元を支援したいと考えている。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマの習性も変化。エゾシカを食べるようになり、土饅頭も作らなくなりつつある。 ・オオカミを導入するまでもなく、ヒグマがオオカミの役割を既に果たしている。 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカによる樹木の被害は金額にするとどれほどか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産地域の中での森林であり、経済的な観点からの被害量は算定していない。むしろ自然環境、生物多様性への多大なる損失を被っているものと認識。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護管理計画による経済効果はどの程度か 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産地域内の生物多様性の保全に加え、周辺市街地への被害の減少といったことも副次的には期待している。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・一方で先端部へは立入禁止と言いながら、エゾシカの被害は放置している。対策を施してもエゾシカによる被害の速度に追いつかないのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験的に個体数を減らすということを早急に行ないたいというのが本計画案である。 ・個体数に直接干渉することによる効果、影響についても同時にしっかりと調査していく必要があると考えている。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾い活動で年に十数回岬に行くが、岬が危機的な状況であるのは重々承知。崖まで崩れているほど。そうであるにもかかわらず、越冬環境改変をしないというのは何故か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知床岬は世界自然遺産地域の核心地域であり、人為的な大規模な環境改変を行うことが適切か、一般に許容されるのかについて判断が必要。 ・越冬環境改変は行わないが、他の核心地域では行なわないとしている個体数調整も、岬では実施したいと考えている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・人為的に頭数を減らすとなると、岬台地に人がたくさん入り込む可能性がある。 ・踏み付けをするな、立入自粛といつも言われているが、この方針に反する行為ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な個体数調整の手法等詳細についてはこれから検討するが、エゾシカ以外の自然環境への悪影響は出来る限り軽減するようにしたい。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場はそれほどの頭数が岬には集中しておらず各地に分散しているのだから、エゾシカが岬先端部に行けないような柵を設置すれば解決ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの岬周辺でのシカの移動追跡調査結果では、特に越冬期前後にはあまり遠くまでは移動していないということがわかっている。 ・半島を横断するような大規模な柵を設置することが果たして適切かどうかについては議論があるところと認識。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・「モニタリング」とはどういう意味か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名が多くて申し訳ない。国語審議会では「モニタリング」ではなく「継続監視」という日本語を用いようという提案がなされているものと認識。 ・各種事業を実施していきながら、その効果・影響について継続して調べていき、評価に役立てようという意味で使っている。

羅	8	<ul style="list-style-type: none"> ・街中のチューリップは5年ほど前に姿を消した。エゾシカが本来好まない種類の樹木も一晩で樹皮が剥がされるほどの採食圧がある。 ・そういう状態なのに、この管理計画の中では5年、10年かけて調査を行うとしている。すぐに対策を実施するという選択肢はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後5年や10年、調査だけを行っていくという考えはない。 ・本計画が策定され次第、優先度の高いものから、個体数調整を含む具体的な取り組みを早急に実施していきたい。 ・その効果や影響を把握するための調査を並行して行っていくことが必要と認識。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・柵を作って植生を保護とあるが、柵が岬にある光景は、より奇異な印象を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在設置している柵は、放置しておけば当地から絶滅してしまうおそれのある植物種を保護する等の目的で緊急避難的に設置しているもの。 ・今後、個体数調整も含めて、いろいろな対策を検討したい。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣捕獲は費用がかかる。何の援助もなければ町だけで行なうのは厳しい。 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・保護区で増加したエゾシカが、町にいろいろな軋轢を与えていることも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画案では、保護区の中での個体数調整の実施も検討しており、それによって隣接する市街地への悪影響も軽減できればと考えている。 ・有効活用を含めた民間主導での個体数調整等についても、環境省として可能な範囲で支援したい。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・遺産地域、隣接地域以外にもエゾシカは生息しているが、本計画ではどこまでの個体を対象としているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産地域とシカの往来が想定される地域という観点で隣接地域を定めている。 ・隣接地域の境界線は明確なものではなく、今後の調査によっては変更する可能性もある。 ・隣接地域及びそれ以外の場所での北海道主導の対策と連携を密にしていきたい。
	13	<ul style="list-style-type: none"> ・知床岬では越冬地改変を行なわないとなっているが、知床岬ではそもそも越冬地改変を行なう場所なんて存在しないのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・極端に言えば、エゾシカが食べる植物を全て排除してしまうとか、コンクリートで全て固めてしまうということも越冬地改変の選択肢の一つとして考えられるが、そのようなことは岬地区では行なわないという念押しのために記述しているもの。
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・半島先端部でエゾシカが増えているのは、逆に言えば他の地域、半島以外のところで農地、畑を柵で囲い込んだりしたため、エゾシカの生息に適した場所が減っているからではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域でエゾシカの個体数が減少しているというわけではない。総合的な対策が必要と認識。
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカの影響により、既に当地の自然は壊滅的になっているのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機的な状況になっていることは認識。 ・出来る限りこの計画を今年度中に策定し、それに基づく事業を早急に実施したい。
	16	<ul style="list-style-type: none"> ・知床岬で春先何頭ぐらい死亡しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今春で140頭ほど（知床財団：岡田氏）
	17	<ul style="list-style-type: none"> ・30年前と比較すると今の知床岬の自然度は30%ぐらいだと考えている。 	
白	18	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種であるアメリカオニアザミが半島で急激に増加しているが、その除去作業は、綿毛が飛ぶ以前の季節にやらないと効果が薄い。春の早い時期からアザミを切り落とせるよう、毎年早期から事業を進めるべき。 ・シーカヤックで海面を行く（ブユ岬等）と、海面に大量のオニアザミの綿毛が浮かんでいて、風が吹くとそこからまた舞い上がり拡散していく。 ・アメリカオニアザミは、シカの影響を受けた場所や、離農跡地、コンブ干場などで増加。 ・放っておけば在来植物は全て駆逐されてしまう。その前に対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている駆除作業を今後もっと効果的に行うように努力していきたい。
	19	<ul style="list-style-type: none"> ・道外からの観光客に、「エゾシカに餌を与えたいが何をあげればよいのか」との質問を受けた。 ・野生動物の問題・状況についての、北海道のPRが足りないのではないのか。マスコミも利用しつつ、うまくPRしていかなければならないと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な視点と認識。本計画にも広報の重要性の記載を検討したい。
	20	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は羅臼湖に大量にエゾカンゾウが咲いていたが、今年是一本もない。エゾカンゾウを元に戻すには、手助けも必要。そのような対策も是非考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山道沿いの植生復元事業・登山道の修復事業等を計画中。その中で是非参考にさせていただきたい。
	21	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者の方々だけでなく、地域の事情をよくわかっている地元の人に調査や事業を行わせた方が、より良い効果が出ると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画は地元の方々の協力なくして実効あるものにしていくことは不可能と認識。 ・本計画が成案となり、具体的な事業を実施していく中で、様々なご協力を皆様にお願ひする事になると思うので、是非御協力いただきたい。